

日本災害看護学会 令和6年能登半島地震・能登豪雨災害看護プロジェクト活動報告

報告年月日:2024年11月3日(日)

活動者 :花房八智代

1. 活動期間

2024年10月29日(火)8:30~16:30

2024年10月30日(水)9:00~19:30

2024年10月31日(木)8:30~13:00

2. 活動場所

避難所:珠洲市立大谷小中学校避難所(石川県珠洲市大谷町1字78番地)

珠洲市自然休養村センター避難所(石川県珠洲市馬縹町17-163-1)

エリア会議:ささえ愛センター(石川県珠洲市飯田町10-60-1)

3. 石川県珠洲市の被害状況

・令和6年能登半島地震(10月31日14:00現在 石川県庁第167報)

人的被害 死者:126人 うち災害関連死29人 負傷者:重症47人 軽傷:202人

住家被害 建物全壊・半壊・一部損壊:5,559棟、非住家被害6,040棟

・珠洲市9月21日大雨による被害(令和6年10月1日15:00現在 石川県庁危機管理監室第13報)

死者3人 行方不明者0人 負傷者調査中 軽傷9人

4. 大谷地区避難者状況

10月29日:28名、10月30日~10月31日:26名 日中は2~3名

5. 支援活動の実際

<大谷小中学校避難所>

生活状況:断水が続いている。前日に自衛隊により2.5t×2回分の給水がされていた。洗濯機2台が設置されており、天候が良い時は、常に1台稼働されていた。また、トイレは、水洗式仮設トイレが優先して使用され、夜間や天候不順時は、屋内のトイレが使用されていた。体育館には大型ストーブが3台設置されていた。食事は1日3回となり、朝昼は避難所で作られ、夜は弁当が提供されていた。時々昼の炊き出しがあった。滞在の3日間は、晴天が続き日中は家に片付けや物を取りに行く方がいて、2~3名程が体育館内におられた。

健康観察:夜間になると咳をする方が数人に増え、のど飴や葛根湯が不足しているという情報があった。含嗽励行のため、イソジンうがい液を資材置き場の真ん中の目立たない場所から手前に移動した。そして、うがい励行のポスターを設置し、滞在者の体調や残薬確認を行った。また、虫刺されによる腫れや転倒による手の切り傷処置、打撲手当が必要な方々がおられ、処置を毎日行うと共に看護師のいない時のセルフ処置の方法を伝えた。

環境整備:石川県の行政支援者2名が常に日勤帯に在在中していた。石川県行政支援者と協力分担をして、清掃活動を実施した。仮設トイレには目立った汚れはなかったが、玄関内は乾燥した砂埃が溜まりやすく、人の出入りも多くこまめな清掃が必要であった。

傾聴:被災者の言葉

・地震の時も全壊ではあったけど、その時はまだ家の中に入れた。大雨で入ることもできなくなったし、そんな家を見たくない。これからどうなるのかと思うが考えないようにしている。ただ、寝たきりにだけはならないようにしたい。

・家は、1階の半分は土砂で埋まってしまった。壁もカビが生えてきている。思い出がなくなってしまった。今日も、シャベルで少しでも荷物をとりだせないか掘ってきたが、土が固くてダメだった。もうどうでもいいやと思って(避難所に)帰ってきた。

・何もすることがなくて困っている。荷物を取りに行ける人がうらやましい。地震の後に冷蔵庫や洗濯機を購入して家の修繕をしたばかりだった。畑もこれからの収穫だったのに全て埋まってしまった。気力がわからない。特に天気が晴れの日は何もできないから、それはそれでつらい。

<自然休養村センター避難所> 避難者 8 名(在宅避難者 38 名)

訪問時には、避難所内は不在であった。避難所内の通路には物品等はなく、整然とされていた。

<コミュニティ支援>

大谷地区お茶会 場所:大谷小中学校避難所ランチルーム 時間:13:00~15:00 参加者:14 名

実施内容:紙皿に折り紙を貼付した菓子皿、新聞紙でのスリッパ・箱の作成

開催時の様子:菓子皿は、菓子皿の見本とキノコ、ハロウィーンのかぼちゃ、くりの3種類の折り方の見本を、3グループごとに回しながら、折り紙を折ってもらい紙皿に貼付した。紙皿にサランラップを巻き固定して完成であった。

1時間、自分なりのアレンジをしながら熱心に賑やかな様子で作成した。手のしびれがある方にはゆっくりとマンツーマンで行った。全員が紙皿を作成した。紙皿に、ピースボード支援団体からのお菓子を乗せて楽しんだ。また、その後新聞紙でのスリッパ作成や箱作りも意欲的に取り組まれた。「頭がパニックや」といいながら、最後まであきらめずに取り組まれていた。最後に「楽しかった」という言葉が聞かれた。参加者は、それぞれに語りながらお互いの作品を褒め合うなどの交流が出来ていた。

<他団体との連携> 10月30日(水)9:00~11:30 ささえ愛センターのエリア会議に参加

9:00~正院・蛸島エリア 9:50~宝立・上戸・直・飯田エリア 10:30~大谷・日置・若山・三崎エリア

在宅避難者で気になる方や、精神科で入院している方の退院後のフォローアップについての情報共有が行われた。日本災害看護学会としては、大谷地区の情報提供と11月から宝立地区のお茶会を毎週水曜日13:00~15:00に再開する旨を伝えた。

<第3回大谷地区インフラ説明会> 10月30日(水)17:00~19:00 大谷小中学校避難所(体育館)

参加者:市長、行政職、住民40名前後

道路、水道、土砂対策、今後の住まいについての整備状況の目安等の説明が行われた。

冬に備え雪が降るまでの11月末までを目安にしている事業等の説明があった。住民からは、冷え込みによる凍結対策や、リアルな今後の方針の情報提供、防災無線に代わる伝達方法、被災証明が種々の福祉制度や税金と連携されていないこと等への具体的な指摘があり、行政への検討課題が明らかになった。

6. 支援活動を通しての所感と課題

大雨被害から1ヵ月以上が経過し、避難所の生活リズムが整ってきている様子が伺えた。しかし、夜間の冷え込みが始まり、インフルエンザ等の感染症の時期となり早めの寒さ対策や感染症予防の強化が必要と考える。訪問時は、晴天続きであり、家の様子を見に行く女性もおられた。傾聴により、家に対しての思いが、家のことを考えたくない方、家の物を少しでも持ち帰れないか固い土を掘り起こしに行く方、家に行ける人がうらやましいという方等を様々に抱えていることを知り得た。被害状況が様々な方が、同じ空間で暮らしている弊害やどうしようもない事への憤りなどを個別に傾聴し少しでも、もやもやした心境を吐き出してもらえそうな関わりを今後もしたいと考える。また、お茶会では、一時でも夢中になれる時間を持てたことも心のリフレッシュが少しはできたのではないかと考える。新聞紙のスリッパは、今後の下肢の冷え防止になる効果が期待され、睡眠の質改善や健康障害のリスク改善の一助になったと考えられる。何より楽しかったとさせていただいたことがお茶会の目的に達成したと考える。今後も少しでも参加者が増えるように関わっていきたい。

7. 参考資料 写真(撮影許可あり)



写真1 お茶会の様子



写真2 生活用給水槽(手前より3台あり)